

付 録

工業統計調査規則 { 昭和26年12月28日 通商産業省令第 81 号
最終 平成元年12月27日通商産業省令第104号
改正

(省令の目的)

第 1 条 工業統計調査（指定統計第10号。以下「工業調査」という。）の施行は、この省令の定めるところによる。

(調査の目的)

第 2 条 工業調査は、工業の実態を明らかにし、工業に関する施策の基礎資料を得ることを目的とする。

(調査の期日)

第 3 条 工業調査は、毎年12月31日現在によって行う。

(調査の範囲)

第 4 条 工業調査は、統計調査に用いる産業分類並びに疾病、傷害及び死因分類を定める政令（昭和26年政令第127号）第 2 条の規定に基づく日本標準産業分類（昭和59年行政管理庁告示第 2 号。以下「日本標準産業分類」という。）に掲げる大分類 F—製造業に属する事業所（国に属する事業所を除く。）又はこれを有する企業について行う。

(調査の種類)

第 5 条 工業調査は、甲調査、乙調査及び丙調査とする。

2 甲調査は、前条に規定する事業所であって、従業者30人以上のもの（製造、加工又は修理を行っていない本社又は本店であるものを除く。）について行う。

3 乙調査は、前条に規定する事業所であって、従業者29人以下のもの（製造、加工又は修理を行っていない本社又は本店であるものを除く。）について行う。

4 丙調査は、前条に規定する企業であって、従業者50人以上で、資本金 1 千万円以上の合名会社、合資会社、株式会社及び有限会社であるものについて行う。

(調査事項)

第 6 条 工業調査は、次に掲げる事項について行う。

1 事業所名及び所在地

2 会社名

3 本社又は本店名及び所在地

4 他事業所の有無

5 経営組織及び資本金額又は出資金額

6 従業者数及びその内訳

7 常用労働者毎月末現在数合計

8 現金給与総額

9 原材料、燃料及び電力使用額

10 委託生産費

11 有形固定資産の現在高、取得額、除却額、減価償却額及び建設仮勘定の増減

12 製造品在庫額、半製品及び仕掛品額並びに原材料及び燃料在庫額

13 製造品出荷額

14 加工賃及び修理料収入額

15 内国消費税額

16 主要原材料名

17 作業工程

18 敷地面積及び建築面積

19 工業用地の取得面積

20 工業用水使用量及びその内訳

21 親会社の状況

22 子会社及び関連会社の状況

23 売上高及びその内訳並びに営業外収益額

24 営業費用及びその内訳並びに営業外費用

(調査票の様式)

第 7 条 甲調査、乙調査及び丙調査は、それぞれ通商産業大臣が定める様式による工業調査票甲、乙及び丙（以下「調査票」と総称する。）によって行う。

2 通商産業大臣は、前項の様式を定めたときは告示する。

(申告義務)

第 8 条 第 4 条に規定する事業所の管理責任者又は同条に規定する企業を代表する者（以下「申告義務者」という。）は、第 5 条の区分に従い、調査票に掲げる事項について申告しなければならない。

(準備調査)

第 9 条 市町村長（東京都内の区のある地域では区長。以下同じ。）は、調査を受ける事業所を確定するため、工業調査の実施に先立って第17条第 1 項に規定する工業統計調査員に準備調査を行わせ、通商産業大臣が定める様式により、工業調査準備調査名簿（以下「準備調査名簿」という。） 1 部を市町村長の定める日までに作成させなければならない。

2 通商産業大臣は、前項の様式を定めたときは告示する。

(調査の方法)

第10条 工業調査は、第17条第 1 項に規定する工業統計調査員が申告義務者に配布する調査票によって行う。

2 申告義務者が調査票の配布を受けなかったときは、調査票提出先にその旨を申し出て配布を受けなければならない。

第11条 削除

(調査票等の提出)

第12条 申告義務者は、調査票 1 部に所定の事項を記入し、記名押印して、これを市町村長の定める日までにその事業所又は企業の本社若しくは本店の所在地の市町村長に提出しなければならない。

第13条 市町村長は、市町村（東京都内の区のある地域では区。以下同じ。）内の準備調査名簿及び調査票を整理した上、審査し、準備調査名簿については、その写し 1 部を作成して保存し、準備調査名簿 1 部及び調査票 1 部を都道府県知事の定める日までに都道府県知事に提出しなければならない。

第14条 都道府県知事は、受理した準備調査名簿及び調査票を整理した上、審査し、準備調査名簿の写し 1 部及び調査票の写し 1 部を作成して保存し、準備調査名簿 1 部及び調査票 1 部を翌年 4 月 30 日までに通商産業大臣に提出しなければならない。

(調査の指揮監督)

第15条 都道府県知事は、通商産業大臣の指揮監督を受けて、調査の執行をつかさどる。

2 市町村長は、通商産業大臣及び都道府県知事の指揮監督を受けて調査の執行をつかさどる。

第16条 削除

(工業統計調査指導員及び工業統計調査員)

第17条 工業調査の事務に従事させるため、統計法第12条第 1 項の規定に基づき、統計調査員である工業統計調査指導員（以下「工業調査指導員」という。）及び工業統計調査員（以下「工業調査員」という。）を置く。

2 工業調査指導員及び工業調査員は、都道府県知事が任命する。

3 工業調査指導員は、市町村長の指揮監督を受けて、工業調査員を指導する。

4 工業調査員は、市町村長の指揮監督を受けて、工業調査に関する事務に従事する。

第18条 都道府県知事は、工業調査指導員又は工業調査員が統計法に違反し、任務を怠り、その他不都合の行為があったときは、解任することができる。

(実地調査)

第19条 統計官、統計主事その他工業調査に関する事務に従事する者、工業調査指導員及び工業調査員は、統計法第13条の規定により、必要な場所に立ち入り、第 6 条第 6 号から第24号までに掲げる調査事項について検査し、調査資料の提供を求め、又は関係者に対し質問することができる。この場合には、職務を示す証票を示さなければならない。

(集計及び公表)

第20条 通商産業大臣は、調査票を審査した上、集計し、その結果を速やかに公表する。

(調査票の使用)

第21条 通商産業大臣、都道府県知事又は市町村長は、統計法第15条第 2 項の規定により、調査票を次に掲げる調査事項に限って、事業所名簿作成の資料として使用することができる。

1 事業所名

2 事業所所在地

3 本社又は本店名及びそれが会社の場合にはその資本金額又は出資金額

4 本社又は本店所在地

5 経営組織

6 従業者数

7 主要製品名

2 通商産業大臣は、統計法第15条第 2 項の規定により、調査票を工業の実態を明らかにし、工業に関する施策の基礎資料を得ることを目的とした集計及び公表のため使用することができる。

3 都道府県知事又は市町村長は、統計法第15条第 2 項の規定により、調査票をその管轄する区域における工業の実態を明らかにすることを目的とした集計及び公表のため使用することができる。

(調査票等の保存期間)

第22条 市町村長の保存する準備調査名簿の写し並びに都道府県知事の保存する準備調査名簿の写し及び調査票の写しの保存期間は、 2 年とし、通商産業大臣の保存する準備調査名簿、調査票及び集計表の保存期間は、 3 年とする。

2 調査票及び集計表を収録した磁気テープの保存期間は、 5 年とする。

附 則（抄）

(昭和26年12月28日通商産業省令第81号)

最終改正 平成元年12月27日通商産業省令第104号

2 昭和25年工業センサス規則（昭和25年通商産業省令第99号。以下「旧規則」という）は、廃止する。

3 旧規則の規定による準備調査名簿および調査票は、それぞれこの省令の規定による準備調査名簿および調査票とみなす。ただし、その保存については、なお従前の例による。

- 4 この省令施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。
- 5 従業者 3 人以下の事業所について行う平成元年の乙調査は、第 4 条及び第 5 条第 3 項の規定にかかわらず、附則別表に掲げる業種について行う。
- 6 昭和63年の工業調査については、第 5 条第 1 項の規定にかかわらず丙調査は行なわない。
- 7 昭和63年の工業調査については第 6 条第21号から第24号までに掲げる事項については調査しない。

附則別表

業 種	業 種 の 範 囲
ねん糸製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類143—ねん糸製造業
織物業	日本標準産業分類に掲げる小分類144—織物業
ニット製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類145—ニット製造業
家具製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類171—家具製造業
建具製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類173—建具製造業
ゴム製・プラスチック製履物・同附属品製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類232—ゴム製・プラスチック製履物・同附属品製造業
なめし革・同製品・毛皮製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類241—なめし革製造業、小分類242—工業用革製品製造業（手袋を除く）、小分類243—革製履物用材料・同附属品製造業、小分類244—革製履物製造業、小分類245—革製手袋製造業、小分類246—かばん製造業、小分類247—袋物製造業、小分類248—毛皮製造業、小分類249—その他のなめし革製品製造業
陶磁器・同関連製品製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類254—陶磁器・同関連製品製造業
洋食器・刃物・手道具・金物類製造業	日本標準産業分類に掲げる小分類282—洋食器・刃物・手道具・金物類製造業

(本規則は、平成元年工業統計調査に適用されたものであり、現行の規則とは異なる。)

工業統計表公表物一覧

		発行所	発行
昭和63年	工業統計表		
	産業編	大蔵省印刷局	平成2年6月
	品目編	〃	平成2年6月
	用地・用水編	〃	平成2年7月
	市町村編	㈱通商産業調査会	平成2年7月
	工業地区編	〃	平成2年8月
	企業統計編	大蔵省印刷局	平成3年3月
平成元年	工業統計速報	㈱通商産業調査会	平成2年12月
	進展する製造業の多角化国際化 —平成元年企業多角化等調査速報—	㈱通産統計協会	平成3年3月
平成元年	工業統計表		
	産業編	大蔵省印刷局	平成3年5月
	品目編	〃	平成3年6月
	用地・用水編	〃	平成3年7月
	市町村編	㈱通商産業調査会	平成3年6月
	工業地区編	〃	平成3年7月予定
	企業統計編	大蔵省印刷局	平成3年10月〃
	企業多角化等調査編	㈱通産統計協会	平成3年8月〃
昭和63年	工業統計詳細情報	㈱通商産業調査会	平成2年8月
平成元年	〃	〃	平成3年7月予定

なお、上記の刊行物のほか磁気テープによる提供を下記のとおりおこなっています。

提供先 ㈱通商産業調査会 経済統計情報センター

住所 東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル) 電話03-3535-5348 (代表)

産業編	昭和46年以降	毎年
品目編	〃	〃
市町村編	〃	〃
用地・用水編	昭和56年以降	〃
工業地区編	昭和61年以降	〃
企業統計編	〃	〃
詳細情報	昭和53年以降	〃

昭和54年3月30日に統計法施行令の一部が改正され「磁気テープ等に記録したものを紙面または映像面に表示し、これを公衆の閲覧に供する方法」という新たな公表形態が設けられました。

これに伴い、昭和53年以降の工業統計調査の集計結果のうち、都道府県別、市区町村別の詳細情報を公表しています。

平成元年詳細情報として公表する表は以下のとおりです。

- 1 都道府県別・産業細分類別表
- 2 都道府県別・産業中分類別・従業者規模別表
- 3 市区町村別・産業中分類別表 (従業者4人以上)

1・2、都道府県別・産業細(中)分類別・(従業者規模別)表

1. 2. 都道府県別・産業細(中)分類別・(従業者規模別)表

都道府県	産業分類	従業者規模	(金額単位：万円)												頁					
事業所数	従業者数 (12月末現在)										合計 (人)	延常用労働者 (人)								
	常用労働者		常用労働者(管理・事務)		個人事業主及び家族従業者		合													
	男(人)	女(人)	男(人)	女(人)	男(人)	女(人)														
製造品出荷額等										現金給与総額										
製造品出荷額	加工賃収入額	修理料収入額	くず廃物の出荷額	その他の収入額	合計	常用労働者	常用労働者 (管理・事務)	その他の現金給与	合計											
原材料使用額等										有形固定資産額 (9人以下を除く)										
原材料使用額	燃料使用額	購入電力使用額	委託生産費	合計	年初現在高															
					土地	土地以外のもの(計)	(建物及び構築物)※	(機械及び装置)※	(その他)※											
有形固定資産額 (9人以下を除く)										取得額 (新規)										
除却額		減価償却額	建設仮勘定※		土地取得額	取得額 (新規)														
土地	土地以外のもの		増加額	減少額		土地以外のもの(計)	(建物及び構築物)※	(機械及び装置)※	(その他)※											
有形固定資産額 (9人以下を除く)										在庫額※										
取得額 (中古)		年初在庫額		年末在庫額		事業所敷地面積 (㎡)		事業所建築面積 (㎡)		事業所延建築面積 (㎡)		用地取得面積 (㎡)								
土地以外のもの(計)	(建物及び構築物)※	(機械及び装置)※	(その他)※	製造品	半製品及び仕掛品	原材料及び燃料	合計	製造品	半製品及び仕掛品											
在庫額※		年初在庫額 (従業者29人～10人)		年末在庫額 (従業者29人～10人)		事業所敷地面積 (㎡)		事業所建築面積 (㎡)		事業所延建築面積 (㎡)		用地取得面積 (㎡)								
年末在庫額	合計																			
原材料及び燃料																				
用地取得面積 (㎡)										水										
合計		公共水道																		
		工業用水道		上水道		地表水・伏流水		井戸水		その他		回収水		合計						
用途別用水量										水										
淡水										海水										
ボイラー用水	原料用水	製品処理用水	冷却用水	温調用水	その他	原料用水	製品処理用水	冷却用水	温調用水											
用途別用水量										生産額				付加価値額	粗付加価値額	有形固定資産投資総額 (9人以下を除く)	有形固定資産年末現在高 (9人以下を除く)	付加価値率 (%)	現金給与率 (%)	原材料率 (%)
海水	合計																			
その他	合計																			
分配率 (%)										従業者 1 人 当た り				事業所 1 事業所 当た り						
分配率 (%)	現金給与総額	製造品出荷額等 (除内国消費税額)	生産額 (除内国消費税額)	付加価値額	粗付加価値額	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (除内国消費税額)	生産額 (除内国消費税額)	付加価値額	粗付加価値額										

3. 市区町村別・産業中分類別表(従業者4人以上)

都道府県	市区町村	産業分類

(金額単位：万円)										頁
事業所数	従業者数 (人)	現金給与総額 (円)	原材料使用額等	製造品出荷額等		品出荷額等		修理料収入額		
				製造品出荷額	加工賃収入額	加工賃収入額	修理料収入額			
製造品出荷額等										
くず・廃物の出荷額	その他の収入額	合計		生産額	付加価値額	粗付加価値額				

平成元年工業統計表（用地・用水編）

平成3年7月31日 発行 定価 14,600円
(本体14,175円・税425円)

編集 通商産業大臣官房調査統計部
〒100
東京都千代田区霞が関1-3-1
発行 大蔵省印刷局
〒105
東京都港区虎ノ門2-2-4
電話 03(3587) 4283～9
(業務部図書課ダイヤルイン)

落丁・乱丁本はおとりかえします。

ISBN4-17-193641-1